

「神の計画を成し遂げる救し」

You Have?～主は共にいますか?～創世記 45:1-8 マタイ 13:11

■ 神の計画を成し遂げる救し

私達はなぜ赦さないといけないのか。私達は赦すことでどうなるのか。神の計画が成し遂げられるということです。この世の様々な理不尽の中に神様の奇跡が起きます。ではなぜ理不尽の中に神様の奇跡が起こるのでしょ

■ 理不尽にしたのは誰か?

自らが任されて自らが管理すべきだったアダムは愛する女性がへびに騙されて食べてしまった食べ物を自ら食べたとき初めて理不尽な証言をしました。「自分は悪くない」人間の罪の最たるものは自己義というものです。皆さんの中に自己義がどれだけあるかによって神様の恵みが出ていくか、閉ざされていくかが決まります。人間の罪の愚かさは絶えず自分は間違っていないという方向に誘惑されていきます。ここを理解していないとどれだけ悪魔と戦うと決めて祈っても意味がありません。悪魔がしたいことは偶像礼拝の中心として自分を神とすることなのです。

■ あなたは神になっていませんか?

人を赦すことと愛することをするべき私達が神のようになって人をさばく様になっていきます。あの人はどうだ!と言っていいのは誰でしょうか?神様だけです。それはなぜか神様が創られたからです。創った人だけがその人の本当の姿を知っていて、その人のあり方を知っていて、価値を知ってるからです。

■ ヨセフはなぜ兄弟たちにこのような対応ができたのか?

ヨセフは気づいたのです、自分の人生に起きるすべての理不尽はその理不尽を乗り越えた事により起きた神の奇跡だと分かったのです。私達が赦すのは神の奇跡が私達に起きるためです。

■ ①持っているものを知る

みなさんは本当に持っているものを理解していますか?人は目的があると行動が変わります。しかし、目的がないと正しい決断ができなくなります。ヨセフは目的を理解しました。自分の人生の中でなぜ自分がエジプトに居るのかを考えたのです。あなたはなぜ神様のためにやっているのにうまくいかないのか、それが神様の奇跡が起こるためだということが分かればあなたの立ち振舞いは変わります。しかし、それが分かると私達は間違ったことをしてしまいます。神様がなぜここを通しているのかを考えないといけません。多くの人はその責任を放棄して自分が持っているものを理解していませんだから劣等感があります。劣等感相手に向けるか自分に向けるかしかありません。大事なことは自分が持っているものを知ることです。持つとは自分自身の存在が自分自身に持たれているということです。分かっていないから見ないのです。人は可能性があるから見ようとするのです。知らないから分からないのです。分かろうとしないから分からないのです。みなさんは知っていることを知ってください。聖書の権威は赦すことなんです。これはイエス・キリストの持っている権威の大多数なのです。そして赦す行為は必ず奇跡を起こしているのです。私達は鍵が与えられています。皆さんは赦す主(ぬし)なんです。赦

されたことを知った人は、神様から赦す権威を与えられています。赦す権威を知れば劣等感はいらないのです。劣等感自分を赦さないことから始まるからです。自分を赦せない感情は絶えず自分を落胆させて失望します。失望は絶望をもたらします。絶望は最終的に諦めになります。諦めると最終的に人と比較してその人から学びます。学ぶとは聞こえはいいが、その人の様に生きることなのです。

■ ②鍵は真っ直ぐに使うもの ③鍵穴を壊してはならない

大切なのはすべてのマイナスな出来事を赦すことです。自己義で鍵を開けようとすると鍵が壊れてしまうのです。イエス・キリストがなされたことはまっすぐ人と向き合ったり自分と向き合うことでした。許しのプロセスはまっすぐ向き合うしかありません。本当の赦しに到達するために大切なことは鍵をまっすぐ使うしかありません。悪魔の目的はコミュニティの崩壊なのです。悪魔はクリスチャンが集まるコミュニティを壊したくてしょうがないのです。そこに一人でもクリスチャンが居れば悪魔は徹底的に働きます。人と人が向き合えば主の回復があるが人が間接的に向き合えば壊れます。悪魔はイエス・キリストの権威を地に落としたいのです。

■ イエス・キリストは馬小屋の人

イエス・キリストは一番底辺まで、降りてください。私達が赦すことは、赦されること的前提です。赦す=赦される自分が何を赦されたか。赦せない人を赦す決断が必要です。「ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。あなたがたの天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらうからです。(ルカ 6:35-38)」

最後に

行いのある信仰は赦すことであり、自分がどうあるべきかです。そして赦すことは赦されることです。行いを勘違いしてはいけません。教会で懸命に奉仕すること…。そんなことではないのです。自分が何を赦されたかを思い巡らし、赦せない人を赦す決断をして行きましょう。

(要約者: 泉水 浩)

(2019年3月24日)